



【 華僑華人研究 】

【 華僑華人（客家） 】

国際学部

准教授 飯島典子 IIJIMA, Noriko

研究シーズの概要

長らく華僑華人の中でも少数集団とされてきた客家（はっか）ですが、近年新たに「自分は客家だ」「自分のルーツは客家語地域だ」と名乗る人が増えてきました。こうした動きは地域の観光産業振興にも関わっています。なぜ新しく客家と名乗る人々が増えているのか。その背景には史実としての裏付けがあるのだろうか、を探っています。

研究シーズの詳細

◆研究例◆

中国雲南省には客家人口がいないとされていましたが、近代になって江西省の客家語圏から雲南に移住した人々の痕跡が見つかりました。彼(女)らはなぜ客家と名乗らなかったのか。近代になって客家を名乗る人々が増えていった、というのが定説ですが、それはごく一部の高等教育を受けた人だけの動きだったのではないかと考え、客家の移動と自己認識の変遷を中国国内外の双方から探っています。

想定される用途・応用例

客家文化圏であることと観光資源開発を連動させて地域経済の活性化を試みている例が少なからずあります。

セールスポイント

客家文化の継承、創造を主旨としたイベントのあり方は日本の観光業にも参考になる所があります。

問い合わせ先：広島市立大学 社会連携センター

TEL:082-830-1764 FAX:082-830-1555

E-mail:office-shakai@m.hiroshima-cu.ac.jp

〒731-3194

広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

(情報科学部棟別館1F)